

この紙のゴール：つかみ・主張・理由2つ・まとめの順で、原稿を見ずに1分半話しきる

課題 Give a talk of about 90 seconds. You may look at six keywords, but not at a script.

1分半の発表をします。見てよいのは**キーワード6語**だけで、原稿は見られません。テーマは下から1つ選びます。

思考・判断・表現

テーマ 1つ選ぶ

A	A place in our town that visitors should see	この町で、来た人に見てほしい場所
B	A skill you want to have in ten years	10年後に身につけていたい力
C	A school rule you would change	変えたい校則を1つ
D	Something you have changed your mind about	考えが変わったこと

組み立て この順に話す（意見文と同じ背骨に、つかみを1つ足しただけ）

1	つかみ （1文）	問いかけか、短い事実で始める Have you ever ...? / Last summer, I ...
2	主張 （1文）	何の話かを1文で言い切る Today I want to tell you about ...
3	理由1＋具体 （2文）	理由を1つ、そのあとに場面を1つ First, ... For example, ...
4	理由2＋具体 （2文）	1つ目と別のこと Second, ... When I ..., I ...
5	まとめ （1文）	聞き手に向けたひとことで閉じる So next time you ..., please ...

届け方 この3つだけ

1. 原稿を読まない。手元はキーワード6語だけ（読み上げは、この紙では発表と呼びません）。
2. 聞き手を見る。始める前**に見る人を3人決めておく**と、目線が下がりません。
3. 大事な1文の前で1拍おく。速さより、この「間」のほうが伝わります。

練習 支えを1段ずつ外す

1. 1回目は原稿を見ながら通す（時間を測る。90秒を超えたら削る）。
2. 2回目はキーワード6語だけを見て。詰まった所に印をつけ、そこにだけ語を足す。
3. 3回目は何も見ないで。ペアに聞いてもらい、下の3つの目で返してもらう。

本番の手元 キーワードカード（本番で見えてよいのはここだけ）

1	2	3	4	5	6
---	---	---	---	---	---

先生はここを見ます 加点式10点

つかみで聞き手の注意を引いている	+2	思判表
何の話かが1文ではっきりしている	+2	思判表
理由が2つあり、それぞれに具体がある	+3	思判表
原稿を読まずに話している（手元はキーワードのみ）	+2	知技
90秒±15秒に収まっている	+1	知技

パフォーマンステスト（発表） | 1コマに収める算数

まず算数 全体発表だけで組むと、必ず足りなくなる

1人90秒×40人＝60分。入替を入れれば1コマにはどうやっても入りません。全体発表だけで組むと、2コマ使って39人が座っているだけの時間が生まれます。そこで**班内で同時に発表させ、全体で聞くのは代表だけにします。**

50分の時間割 班内同時発表 → 代表だけ全体

0～10分	準備（授業内でとる）。キーワード6語を決め、1回目を小声で通す。宿題にしない一家で準備できる生徒とできない生徒の差が、そのまま点差になります
10～20分	班内同時発表 （4人班×10班）。90秒×4人＋交代＝約8分で全員が1回発表し終わる。教師は2～3班を回って聞く
20～25分	班で1人、代表を決める（毎回ちがう人が出るよう、順番制にする）
25～42分	代表10人が全体発表。1人90秒＋聞き手からの質問1つ
42～50分	講評。良かった つかみ を2つ、教師が読み上げて共有する

聞き手の仕事 手ぶらにしない

- ・聞き手には必ず仕事を渡す（手ぶらだと、発表を聞かなくなります）。班内発表では**聞いた人の良かった点を1つ書く**、全体発表では**質問を1つ考える**。
- ・質問は英語1文で十分です。Why did you choose that? / What happened next? の2つを板書しておく、誰でも出せます。
- ・評価に使う回は、聞き手の記録は点にしません（相互評価を成績にすると、生徒は甘くつけます）。

記録 記録シート（班ごと・その場は○△×だけ）

氏名（班ごと）	つかみ	主張	理由と具体	原稿なし	時間	メモ

その場は○△×だけを打ちます（○＝満点・△＝半分・×＝0）。合計は放課後に一度で出す—90秒を聞きながら加算までやると、聞くほうが疎かになります。

よくある失敗

原稿の暗唱になる	手元をキーワード6語に限るのが唯一の歯止めです。 語数を数えて配る （カードは紙に刷ってある欄だけ）。暗唱を許すと、話す力ではなく記憶力を測ることになります。
代表だけがうまい班ができる	代表は 順番制 にします。「いちばん上手な人を出す」にすると、同じ生徒が毎回出て、他の生徒は全体の場で話さないまま学期が終わります。
時間が押して講評が消える	消してはいけなは講評のほうです。代表発表を8人に減らしてでも、 良かったつかみを2つ共有する5分 を残します—一次の回の質が変わるのはここです。

テストに入れる

学期に1回、この**90秒で10点**（上の配点そのまま）。やり取り版（1分）と合わせると、話すことの評価が学期2回になり、観点別評価の「思考・判断・表現」に話す活動の記録が残ります。

